

大学入試共通テスト「情報」及びその学習指導に関する意見

2021年2月9日

大学入試センターから2020年11月24日付で当学会に「平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した大学入学共通テストの出題について」と題する情報提供があり、参考情報として、同センターにおいて検討中の『「情報」試作問題（検討イメージ）」をいただきました。

この試作問題の作成の基礎とされている高等学校学習指導要領（平成30年告示）「情報I」には、指導内容として「データの活用」が含まれています。これは、統計学の基礎的な知識・能力を指導するものであり、情報科学において統計学は重要な役割を有していることから、これが「情報」科目の指導内容に含まれることは、当学会としても適切であると考えています。また、大学入試共通テスト「情報」において、「データの活用」に関する問題が、統計に関する基本的な知識及び活用能力を問う形で適切に含まれることに対して賛同いたします。

提示された試作問題には、試作段階であるとは言え、回答肢に不適切なものが見られることから、今後、問題の作成に当たっては、学問的に検討すべき課題があるものと認識しており、特にデータの活用に関する問題に関しては、統計学の専門家を交えた丁寧な検討が必須であると考えます。

このことは、入試問題の作成にとどまらず、「情報」科目における統計の指導内容・方法についても重要な課題を含んでいると考えます。「情報」科目においては、限られた授業時間数の中で、統計に関する正確な知識に基づいて「データの活用」を適切かつ十分に指導することは決して容易なことではありません。生徒たちが統計を正しく理解し、活用する能力を身に付けるためには、「情報」科目と「数学」科目において統計教育の十分な連携を行うなど、高等学校教育の場において、統計に関する指導の整合性を確保することが必須です。

当学会としては、今後、「情報」科目における統計に関する問題の作成だけでなく、同科目における統計の学習指導に関しても積極的に建設的な助言と支援を行う用意があります。今日、データからの価値創造が求められるデジタル社会の進展に伴い、ますます統計教育の重要性が高まると認識しており、「情報」の大学共通入試テスト及び学習指導において、統計を適切に扱うことのできる体制の整備を望みます。

一般社団法人日本統計学会
会長 川崎 茂
理事長 山下 智志